昭和57年度

紅花に関する調査資料

昭和58年3月

山形県農林水産部
園芸特産課

ま　え　が　き

紅花の原産地は、一般に地中海沿岸であるとされ、シルクロードを経て我が国に伝来したといわれている。

本県ではいつ頃から栽培されたか明確な記録はないが、１６２０年（寛永）頃から１８６０年代（幕末期）まで「最上紅花」として、村山地方における農業の中心として、重要な位置を占めてきた。

その後、明治初期の産業政策と中国紅花、印度紅花の輸入及び化学染料の圧迫により全滅の危機に頻した。

戦後、山形県を代表する花として、その保存と復興を図る運動がおこり、昭和４６年には化粧品メーカーとの契約栽培もあったことから３６*ha*まで面積が拡大された。その後は、化学染料による圧迫等があり、再び減少の一途をたどった。

しかし近年、自然染料の見なおしや健康食品の期待及び切り花としての需要があり、紅花の魅力が話題にされ、栽培面積も徐々に増加している。

このため主に近年における紅花の需給動向と農業経営の一部門として成立する可能性について調査結果をとりまとめてみました。

本資料を作成するにあたり関係者各位の御協力を得たことに対し厚く感謝の意を表する次第であります。

昭和５８年３月

山形県農林水産部

園芸特産課長　浅　黄　昭　三

目　　次

第1　最上紅花栽培衰退の原因 …… 1

第2　紅花の生産と販売 …… 5

第3　紅花の輸入状況 …… 15

第4　今後の紅花産業 …… 17

資　　料 …… 18